

がらスピリチュアルケアの活動を再開している例はさらに増えていることが予想されます。病院や福祉施設で活動する者は活動施設と対話を重ね、カフェ活動や分かち合いの会等を実施している者はスタッフ同士で対話を重ね、活動再開・継続のために知恵を絞っているのではないのでしょうか。そうした過程で、スピリチュアルケアとは何なのか、自身の活動の目的や役割、意義等を見つめ直すことになったとも思います。制限されることも

多くありますが、ニーズがある限り、ゼロにするよりは少しでもないかできることを探して、みなさんと協力し、情報共有しながら、活動していかれることを願っています。

なお、本調査結果の詳細については、日本スピリチュアルケア学会発行の『スピリチュアルケア研究』第5巻に掲載される予定です。アンケート調査にご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

困った時の頼み方：リファアーのすすめ

大村 哲夫

皆さんは、対面で、オンラインで、インターネットなどでケアを行なっていて、「この人は私の手に負えない」、「他の人に関わってもらう方が良さそう」、「手一杯でこれ以上無理」、「居住地の関係で他を紹介したい」などと思ったことはありませんか。そうした時には、無理に関係を続けず他の臨床宗教師や専門職に代わってもらうことも必要です。

この時まず大切なのは、ケア対象者を傷つけないことです。というのは、一旦引き受けた関係を途中で止めることは、「見捨てられた」とケア対象者に思わせ、傷つけることとなります。自分の入院や転勤などのやむを得ない場合を除き、交代をしなければならない時は、できる限り早めに伝えることです。

次に大切なことは、リファアー（紹介）のしかたです。リファアー先にはあらかじめ了解を得ましょう。リファアーされる人にも都合があります。ケア対象者に伝えてから、リファアーが受けられないとなるとやはりケア対象者は見捨てられたような思いを感じます。またリファアー先は、利害関係がない人・団体を紹介します。できる限りリファアー先を複数提示して、ケア対象者に選択権を与えることも大切です。

なお、医療福祉施設や公開の相談窓口などについての情報を提供する際には、特殊な状況を除いて、あらかじめ先方の了解を得る必要はありません。市町村の福祉事務所や保健所などがまとめていることがありますが、地域の相談窓口の情報を集めておくことをおすすめします。

長く「持続可能」な臨床宗教師活動を続けていくためには、決して無理をしないことと、助け合い支えあうことが不可欠です。

日本臨床宗教師会（郵送先）

〒980-8576 仙台市青葉区川内2-7-1 東北大学大学院文学研究科 実践宗教学寄附講座内
FAX: 022-795-3831 Email: sicj@g-mail.tohoku-university.jp URL: <http://sicj.or.jp>